

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
1	（公財）とやま環境財団	○	○		○			○	○	フードドライブ（FD）の目的は、食品ロス削減だけでなく、集めた食品を必要とする人に届けることもあることに着目した。それを実践するためには、食品を集める団体と、必要とする人を知っている団体と協働することが必要で大きなことである。そこで、目的が実現できる仕組みを作るために、いくつかの団体・事業者と協働した。 6月20日 くらしあんしん教室内にFDの趣旨説明 7月11日、8月28日 若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会 協働依頼・説明 8月9日 牛島新町町内役員会 FD説明・実施提案 10月12日 消費者大会 発表・展示 10月30日 ゲートキーパーネットとやま研修会 FD説明 11月 3日 みんなの消費生活展 展示・説明 11月 8日 あすのふるさと・富山県を創る合同研究集会 FDコメント 12月13日 第2回富山市SDGsアクションミーティング FD発表 とやま生活協同組合みなみ店で常設して、5月から毎月2回程度回収計22回、300kg程度 ドン・キホーテ富山店 6月～11月 毎月末2日間有人収集延べ12回、20kg程度 らいふずへ5回、ダルク富山へ1回届けた。他の団体や個人には多数手渡しなどで届けた。 いみず環境チャレンジ10の中に食品ロス問題について取り入れた 地球温暖化について小学校へ出前講座に行くと、食ロスも含めて話をしている。 個人的には、娘、孫にはもったいない、食べ残しをしない、食材を使い切るなど、ことあるごとに話すようにしている。 環境チャレンジ教室等で出前講座の内容に食品ロス問題を組み入れ
2	NPO法人 青森県消費者協会	○	○							○当協会主催の「第57回青森県消費者大会」を令和5年11月8日に開催し、出展団体による展示・即売コーナーを設置した。出展12団体の内2団体が「食品ロス削減に係る展示（ポスター掲示等）」、「エシカルアンケート」のテーマで「食品ロス削減」について啓発を行った。 参加人数：147名 ○青森県からの受託事業として実施している「県民を対象とした移動消費生活講座」において、エシカル消費の説明の中で「食品ロス削減」を取り上げた。 講座開催回数：62回 参加人数：2,956名
3	NPO法人ふうどばんく東北AGAIN	○	○	○	○			○		0
4	NPO法人フードバンク浜っ子南			○	○			○		①フードパントリーにて参加者の方に食育の説明をした。 ②横浜市内の小学校2校および中学校で、授業の1コマとしてSDGs、食品ロス削減、フードパントリー、フードドライブの説明をした。 ③市内の油揚げ製造工場からB級品の寄付を受け入れ、フードパントリーで活用し、食品ロスを削減する活動を推進した。（生産者都合により昨年末で寄付は中断している） ④市内の大型小売店舗より賞味期限間近の食品の寄付を受け入れ、フードパントリーで活用し、食品ロスを削減する活動を推進した。
5	NPO法人まち・ネット・みんなの広場	○	○	○				○	○	一年を通して団体独自でフードドライブを実施し、市民・企業・団体等から寄付頂いた食品を養護施設や子ども食堂等、支援を必要とする方へお譲りし有効活用しました。また東海市との協働事業で開催した環境イベントにおいてもフードドライブを開催するとともに、小中学生を対象に食品ロス削減について学んでいただく機会を設けました。 また地域のケーブルテレビ局「知多メディアネットワーク」からの依頼により、食品ロス削減のための各家庭でできる取り組みを紹介する番組に出演しました。「食品ロスを減らすために」をテーマに、①冷蔵庫の整理の仕方(10/23)②買い物時のポイント(10/30)③捨てずに食べきる工夫(11/2)についてお話ししました。また様々なSDGsの取り組みを紹介する「2030知多半島」という番組(2/23放映予定)にも出演することになり、食品を含む資源を大切に、循環型社会の重要性についてお伝えしたいと考えております。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
6	NPO法人消費者ネットしまね		○		○			○		エシカル料理教室を開催し、その中で食品ロス削減できるような教室を行いました。市と連携して1回、出雲地域内の公民館で3回、事業所で1回、サークルで1回、生活協同組合で1回実施しました。また、農林高校食品科の学生にも調理実習を行いました。子ども食堂を主催しているのでこの中で地域で余っている野菜を有効活用させていただきました。エシカル料理教室は地元の山陰中央テレビの「かまいたちの掟」という番組でも取り上げてもらうことができました。多くの人の目に留まってもらえれば良いともいました。食品録削減を堅苦しく考えず明るい未来に向かって実施していく手伝いを今後も取り組んでいきます。
7	officePturn	○		○	○			○		地元のショッピングセンター（イオンタウン富士南）で毎月開催しているSDGsイベントで啓蒙活動を実施 ・イベント開催中は会場へ、終了後は店内へ食品ロスポスター掲示（ご提供いただいた資料） ・静岡県の実証紹介、掲示物 ・他県（愛知県）の取組冊子を配架 ・愛知工業大学のローリングストックに関連した備蓄食レシピの取組みを紹介 ・SDGsゲーム、Get The Pointを利用した啓蒙活動 市内小学校でのSDGs教育サポート時に食品ロスについて講義 ・SDGsゲーム、Get The Pointを利用した学習支援 ・ゲームの振り返り時に手前どりや食べ残しをしないなど身近な例で説明 地元企業での食育イベントへ参加 ・市内の他団体と協力し食品ロスの資料配布 ・SDGsゲーム、Get The Pointを利用した啓蒙活動
8	愛知県北名古屋市 防災環境部環境課		○		○			○		イベントへの出展、学校での講座、年2回のフードドライブの実施、広報等での啓発
9	エコマインドの会		○	○					○	・千葉県地球温暖化防止活動推進員としてイベント等で市民に啓発活動を行いました。・国立環境研究所のネットワーク図（食料、災害と安全保障）や「地域循環共生圏」の図も利用して、食品ロスについて理解を深めていただきました。・地元の公民館（船橋市）での環境講座で、参加者同士が話し合い、日頃感じていることや日常の活動状況を共有しました。・食費やエネルギーの高騰について昨年にも増して、率直な意見を聞くことができました。
10	エコーブ生活協同組合	○						○		10月の食品ロス削減月間に当組合全体のとり組みとして「フードドライブ」を開催。各支所、各店舗、本部事務棟において10月23日（月）から29日（日）（店舗以外は27日（金）まで）にて開催。合計1,019kgの食品等が寄せられ、フードバンク団体を通じて子ども食堂や福祉団体などに配られました。 また、このとり組みに合わせ、8月には「もったいない〜流通と食品ロスの視点から〜」と題した学習会を開催し、会場、オンラインにて合計59名の方に参加いただきました。更に、10月にはオンラインにて「もったいない〜賞味期限のギモン〜」と題した学習会を開催、サテライト会場も含め66名の方にご参加いただきました。
11	おむすびの会		○	○				○		令和5年11月12日(日)に、大井町の環境展が行われ、そこに我が会も出展。町の生活環境課より、フードドライブをやってみませんか、との打診があり、初開催。事前の周知も町が行ってくれた。1番人通りのある場所に区画を用意してくれ、町も我が会も、想像を大幅に上回る来場と食品も持ち寄りがあり、かなりの量のフードドライブ品が集まった。またフードロスに関するクイズ用紙を用意し、クイズに参加した方には、クイズの正解とその説明の載ったプリントと、災害備蓄品の入れ替え時に出た賞味期限の近いアルファ米をお試しにとお渡しし、皆さんに喜んでいただけた。
12	鹿児島県鹿屋市農林商工部農政課	○	○	○						・鹿屋市民を対象に講話や調理・試食を行う教室で、食品ロスに関する講話及びエコクッキングの実施 ・官民協働で実施する環境フォーラムで、エコクッキングの実施や、食品ロスに関する講話・展示を実施

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
13	埼玉県東松山市			○						産業・環境フェスタにおいて廃棄物対策課ブースで食品ロス削減啓発活動を実施。同イベント時並びに、東松山市役所においてフードドライブ活動実施。
14	たすけあい							○		週1回、食品の無料配布を行っている。月1回、食品の無料配達を行っている。
15	東京都町田市環境資源部環境政策課3R推進係	○	○	○	○			○		町田市では食品ロス削減推進計画を策定し取り組みを行っております。食材を使い切る「かわいいレシピ」の配布や「エコ得レシピ」の募集、学校関係や町内会・自治会での講座やイベントなどでの啓発活動、フードドライブ回収場所の拡大等を行っております。また、食品ロス削減に取り組んでいる事業者には『まちだ☆おいしい食べきり協力店』として認定しています。本年度はフードシェアリングサービス『TABETE』との連携協定を結びました。 私個人としても東村山市で職員向けと市民向けに講座を行いました。ホームページの活動実績にその様子を掲載しています。
16	東京都板橋区消費者センター							○		区主催消費生活展イベント会場でフードドライブを実施、回収食品を必要としている地域のフードバンク等の生活困窮者支援団体へ寄付する取り組みを実施。
17	とやま生活協同組合				○			○	○	①これまで年に何度か単発的に行ってきたフードドライブですが、生協店舗みなみ店（富山市）と、東部配送センター（魚津市）で常設化し、いつでもどなたからでもご提供いただき、随時、市の社協、若者支援福祉団体にお届けまたは引き取りに来てもらっています。（2023年5月常設化実証実験開始、8月から常設化） ②富山県で実施されている「14歳の挑戦」という中学2年生対象の職業体験で来てくれた3名に「食品ロス」「フードドライブ」について知らせ、フードドライブへの協力を呼びかけるポスター作成を体験してもらいました。（2023年7月） ③毎月発行されている組合員向け機関誌のSDGsに関するコーナーで、SDGs目標12と絡めて「食品ロス」について取り上げ、フードドライブという取り組みがあることを紹介しました。（2023年9月号） ④富山県立高校の2年生で「食と環境」という科目を選択している生徒3名を対象に食品ロスをテーマとした特別授業を行い、その後、受講した高校生を中心に家庭科クラブのメンバーで校内でフードドライブに取り組んでみたいとの申し出があり、実施について協力し、集まった食品や非食品をお預かりしました。その際、消費者庁発行の『食品ロス削減ガイドブック』を多に活用させていただきました。（2023年9月授業、10月FD） ⑤県内企業から防災備蓄品の中の非常食の入れ替え時期が来たが、とやま生協でフードドライブに取り組んでいるというのをホームページで見たので提供したいとの申し出があり、7品目計1,600食、128kgを受け入れました。（2023年10月） ⑥当組合が組合員と地域を対象に県内3か所で行う「生協まつり」というイベント時にフードドライブを実施。職場内でも職員に呼びかけ、職員・組合員・地域一体となって取り組みました。把握できる人数で115名＋1法人（常設ボックスは人数不明）、2,470点、363kgとなりました（④、⑤含む）。フードバンクや子ども食堂、福祉団体等へおつなぎしました。（2023年10月11月） ⑦SDGsの中でも「食品ロス」「エシカル消費」「リサイクル」「海洋プラスチックごみ」を中心にした設問で、組合員向けアンケートを実施しました。2,186名から回答を得ました。（2024年2月） ⑧大雪の影響で関西方面から北陸への納品が間に合わず、本来であれば注文者である組合員にお届けする商品をお届けできなくなったことがありました。大量にある食品の中でも日配品と呼ばれる日持ちしない食品の対応については特に急を要しましたが、過去の経験を活かし、フードバンクや交流のあるところに声をかけ、引受先を探し、食品廃棄を防ぐことができました。日配品、パン、ドライ（常温品）計14,490点（2024年1月、2月）
18	長野県松本市									自治体としての啓発等の取組みはあります

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
19	奈良県生駒市役所		○		○					■ 生駒市、貝印㈱と奈良県立奈良北高等学校が、産官学連携で「生駒市やさしい切りかたプロジェクト」を実施。 （１）具体的な取組内容 n令和5年9月28日、県立奈良北高等学校で特別授業「やさしい切りかた教室」を実施。1年生の生徒38名がSDGsや食品ロスの基本的な考え方を、クイズや世界の現況を交えながら学んだ。 n料理研究家の島本美由紀先生が、自ら監修した貝印㈱のWebサイト「やさしい切りかた辞典™ https://www.kai-group.com/products/special/hocho/yasashii/」の誕生背景を紹介された後、生徒はサイトを見て実践に向けた切り方を学習。切り方を工夫すれば、ヘタや軸の部分まで食べられることを理解した。調理実習では、島本先生の切り方のお手本とサイトをもとにやさしい切りかたを意識し、みじん切りを実践。過剰除去を少しでも減らすべく自ら考え、「野菜たっぷりキーマカレー」が完成した。 n調理後に残った野菜ごみの重さを計量した結果、全グループで9グラムが最も少なかった。 n特別授業後、家庭科担当の教諭が他のクラスでも当プログラムで授業を実施し、1年生全280名が受講した。 n生徒が食品ロス削減啓発のオリジナルリーフレットを作成。同年11月27日から12月8日まで市役所本庁舎の1階ロビーで展示会を実施し、市民や消費者等に向けて過剰除去削減を啓発した。 （２）目標達成状況及び効果 n授業中は、生徒自らが“いかにして野菜の過剰除去を少なくするか”を工夫し、「やさしい切りかた辞典™」を繰り返し見ながら包丁で丁寧に野菜の不可食部を切り落としていた。また、各班で残った野菜の不可食部の重さを計量し比較することで、ゴミを最小限にする努力した成果を可視化した。 nSDGsの取組みは、世界全ての人のための取り組みであり、何か難しいことのように考えている生徒も多かったが、友達と一緒に考えながら調理することはとても楽しく、また工夫して作った料理と一緒に食べることはとても美味しかったようである。持続可能な取組みの意義を考えるいい機会になった。 n生徒一人ひとりが無駄のない野菜の切り方を習得・実践することで、SDGsや食品ロス、環境配慮活動についての興味関心を持ち、地球の未来を考えるきっかけとなった。
20	奈良県奈良市	○			○			○		* 市内小中学校の授業内で、食品ロス削減キャラバン（出前講座）を実施し、「てまえどり」や「給食の残渣軽減」に向けた周知活動を行った。 * 市内の公民館で、婦人会などの各種団体向けに、ごみの減量や食品ロス削減に向けた出前講座を行った。 * てまえどりのポスターやポップといった啓発物を、市内の食品小売業の店内に掲示依頼を行った。 * 小中学校の児童の声で「てまえどり啓発音源」を作成し、市内の食品小売業の店内で、定期的に放送を行った。
21	ハートカウンセリング	○								自身の講座やセミナーの終わりに食品ロスの現状や防ぐ方法などを伝え、チラシを配布しました。
22	ひとえの会	○	○	○						・6/17、11/26、3/21 世田谷区消費生活課の出前講座実施「上手に買って、ムダなく食べよう～身近にできるエシカル消費～」 ・2/16 世田谷区消費生活課の出前講座「消費期限・賞味期限を知って、今日からできるエシカル消費」 ・10/19 世田谷区消費生活課との協働による啓発活動「出前講座：食品ロスって何？～『いただきます』と『もったいない』～」 ・10/21 松沢地区ごみ減量推進協議会主催の「リサイクルフェア」においてフードドライブの実施 ・6/17 松沢地区社会福祉協議会主催「社協広場」においてフードドライブの実施 ・8/26 世田谷保健所主催「食とくらしの健康フェスタ」にてNPO元気ネットの食品ロスクイズ（パペット）実演 ・9/30 世田谷区清掃・リサイクル部事業課とNPO元気ネット協働で第1回食品ロス削減セミナーを開催 ・12/16 世田谷区清掃・リサイクル部事業課とNPO元気ネット協働で第2回食品ロス削減セミナーを開催 ・地域のごみ減量・リサイクル推進委員会でリサイクルセンターの見学に行った。 ・暮らしと健康づくり部会で落語会を開催し、SDGsの話を取り入れて好評だった。 ・東京都消費者月間の実行委員会に参加して食品ロスの学習会やフードドライブに参加。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
23	ひるぜん塩釜キャンプヴィレッジ								○	社員教育をしました。地域事業者と一緒にフードバンクやフードドライブと連携した食品ロス削減のイベントをしようと動きましたが一緒に連携できそうな団体が見つからずイベント実施に至っておりません。
24	フードバンクM・高崎		○		○			○		年間大学への啓発活動は5～6か所で行っています。フードドライブ活動は自身は町のイベントでの参加、企業や学生からのフードドライブも継続されています。 こども食堂や困窮者への食品ロス寄付は当然ですが、食品ロスの講話を聞きに行くことも自己学習だと思っています。先日は行政から備蓄品の寄付を受ける際に行政にお伝えしたのが「備蓄品はカンパンでなく美味しいものにしてほしい」と。理由はフードバンクでカンパンを寄付されても子どもも高齢者も食べにくいです。アキモトのパンは5年たってもやわらかく美味しく食べられます。我が法人の保育園ではビスコにしています。 もうすぐフードバンクを題材に詞を書いたオリジナルソングが完成します。大学生や町のお祭りで聞いてもらう機会があるかと思うのです。
25	フードバンクそお	○	○	○						・市民祭等のイベントでブースを置いて広報しました。 ・子どもたちへの食品提供を行う中で広報しました。 ・コミュニティFMに出演し活動を紹介しました。
26	フードバンク木津川		○		○					木津川市まち美化推進室が主催する地域の小学校での「フードロス削減について」の出前事業に協同参画し昨年は3校で計7時限の出前授業を実施した。また同じく木津川市まち美化推進室が主催する年2回の「エコフェスタ・イベント」にてフードドライブを計4日間実施した。
27	福岡県筑後市かんきょう課		○	○			○	○		・市主催のイベント内にて、県の食品ロス削減マイスターを講師に招いて「食品ロスゼロ親子料理教室」を実施。 ・地域のデイサービスへ出向き、食品ロスについての出前講座を実施。 ・市内小学校4～6年生の児童を対象に「食品ロス標語コンクール」を実施。優秀作品においてポスターを製作し、市内店舗や公共機関等に掲示。 ・食品ロス削減に向けた事業者訪問を実施し、食品の破棄状況等の聞き取りをしながら意見交換を行った。 ・市内スーパーと「フードドライブ」を協働で実施し、市民から提供していただいた食品を社会福祉協議会へ寄付。 ・市内スーパーやコンビニ等に協力を依頼して、市が作製した、食品の「手前どりのPOP」を掲示してもらった。
28	ポーソー油脂株式会社			○						規格外野菜をプレゼントするキャンペーンを7月と10月に行いました。詳細は下記をご参照ください。 ●7月実施 https://www.boso.co.jp/?p=2905 https://www.instagram.com/p/CuN0b_hxYMo/?img_index=4 ●10月実施 https://www.boso.co.jp/?p=2992 https://www.instagram.com/p/Cx4JA0eSEwi/?img_index=1 また10月28日29日の2日間で新宿御苑にて規格外野菜が集まるマルシェを実施しました。 https://www.boso.co.jp/?p=3046

令和5年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 146団体（個人を含む）

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
29	マックスバリュ西日本株式会社	○		○	○			○	○	大きな取組みとして2点 （1）廃棄率削減の取組 スーパーマーケットを運営している中で、廃棄食品が発生するため廃棄削減目標を設定し取り組む。 会社目標「0.34%以下に抑える」（店舗数約380店舗） 店舗毎の廃棄状況が比較できる仕組みを取り入れ実施する。 （2）廃棄食品のリサイクル 生ゴミのたい肥化等を進める。（464トンの生ゴミ削減効果） ①岡山エリアでの生ゴミリサイクルの実施（新規25店舗） ②精肉部門の商品化時に発生する肉の端材をリサイクル実施。（新規41店舗）
30	宮崎県宮崎市食生活改善推進協議会	○								宮崎市食生活改善推進協議会の学習会で他の会員に報告・啓発した。
31	もったいないアンバサダー ベスタ		○							家庭で残りがちな食材や旬の食材を使い切るレシピを考案し、「もったいないクッキング」として料理講座を実施。 食品ロス削減につながるクイズを作成し、講座の中でさらに意識を深めてもらった。 令和4年3回（大人向け2回、親子向け1回） 令和5年3回（大人向け2回、親子向け1回）
32	愛知県一宮市		○					○	○	・イオンモール木曽川と共同でフードドライブを開催した。 ・食品ロスの削減に取り組む市内の飲食店等を「いちのみや食べきり協力店」として登録し、啓発ポスターを配付するとともに、市ウェブページでその取組を広く紹介することにより、市民及び事業者の意識の啓発を図った。 ・修文大学の学生に食品ロスを削減するレシピを作成してもらい、レシピを市ウェブページで紹介するとともに市庁舎食堂のメニューに加えた。 ・小学生の親子を対象にクッキング教室を開催し、環境に配慮した買い物や料理・後片付けの仕方を啓発した。 ・一般廃棄物処理基本計画を改定し、計画内に食品ロス削減推進計画を新たに盛り込んだ。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
33	一般財団法人 広島県環境保健協会	○	○	○						【公衆衛生推進協議会の活動】 ①支援団体に食品ロス削減の教材・メニュー作成し、提供することで、住民への普及啓発事業を行った。「令和5年度食品ロス削減キャンペーン事業」を呼びかけ、県内6市町公衛協が取り組んだ。上手なローリングストック、防災備蓄品の賞味期限確認、取り組まれている食ロスの取り組みのヒアリングなどを行った。約450枚のアンケートも回収し、食品ロスの認知度、取り組んでいる活動を知ることができた。 食品ロスの課題の認知度は、93%で、全国平均より高い水準となっている。また、取り組みとしては、「買い物」が最も取り組まれ、手前どり、必要なものだけ購入などを実践していることが分かった。一方、調理やリメイクに関する回答は少なかったため、今後、情報提供が必要と考える。 ②リーダー研修会で、食品ロスの学習会を実施 食ロスに取り組む「株式会社ハローズ」の太田様を講師に、県内の住民活動リーダーが集まる研修会（120人参加）で、講演をしてもらった。企業の取り組みを学ぶとともに、住民活動としてできる事なども共に考える研修となった。 【地球温暖化防止活動推進センターの活動】 ①廿日市市大野の住民48人を対象に、食品ロス削減につながる取り組みを学ぶ学習会を実施した。広島県立西条農業高等学校の協力を得て、食糧生産の観点からエネルギーと環境負荷について講演してもらい、参加者が食品ロスについて考えるきっかけとした。また、コオロギ昆虫食の調理と試食をすることで、参加者の興味関心を高めることができた。 ②廿日市市が主催する環境イベント「はつかいち環境フェスタ」に出展し、食品ロス削減につながる取り組みを広く住民に啓発した。的あてゲームで、子ども連れの来場者の集客を図る工夫をし、展示したパネルは図やイラストが多く、一般の人にも分かりやすいパネルを使った。また、家庭でできる10の項目をチェックシートにして、取り組めることを考えるきっかけにもらった。当日、イベント全体の来場者数は2,000人、当センターブースにてアンケートに回答した151人の結果から、35%の人に意識変容があった。
34	一般財団法人徳島県婦人団体連合会	○		○						・毎年、徳島県下で、2,000人アンケートと実施し、徳島県婦人問題調査研究発表大会において、アンケートの集計結果をまとめ、発表した。 ・阿南市では、単地域地域の桑野婦人会において、35名参加のもと、「食品ロス ガイドブック」を配布し話し合いをもった。
35	一般社団法人 あきた地球環境会議		○	○	○			○		・食品ロス削減を呼びかけるオリジナルパネルを作成し、地方公共団体主催イベント、当法人主体イベント等で啓発を行った。 ・講師派遣事業において、教育機関（小・中学校）へ出向き、SDGsや環境教育の中で座学（食品ロスの現状等）、実践（省エネクッキング）を通して自分ごと化させた。 ・法人として様々な事業者と連携し、県民に対する食品ロス削減アクションを推進している（食べきり、てまえどり、値引商品の購入、フードドライブの利用）。 ・自治体で作成した食品ロス削減啓発DVDを講師派遣時に学校へ配布。 ・潟上市の食育推進会議委員になっているサポーターがあり、委員として定期的に委員会へ参加し、自然体の活動へ助言している。
36	一般社団法人 愛知県食品衛生協会						○	○		①地域の農家さんから市場に出せない野菜や果物、例えば曲がったキュウリや大根、傷のあるナスやリンゴ等を農作業を手伝いながらいただいて、それを地元の子ども食堂で使ってもらう。 ②ファミリーマートさんと地域のぐーどドライブをしている店舗に契約し、回収に行き、それを子ども食堂や、地域の社会福祉協議会へもっていく。
37	一般社団法人 i-Sora	○		○						・団体内でのサポーター育成 ・当法人主催イベントでのフードドライブボックスの設置および集まった食料品を地域のフードバンクへ寄付

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
38	一般社団法人フードバンク東九州	○		○	○	○	○	○	○	<団体独自のイベント・学習会などでの啓発活動（団体内サポーター育成を含む）> <社員教育として企業への講師派遣> < 地域での啓発活動（イベント、ファーマーズマーケット、展示会等）> ■2023年2月6日(月)～2月10日(金)「第2回食品ロス削減推進サポーター育成オンライン講座」参加者：36名 ■2023年3月21日(火)「高校生対象：食品ロス削減推進サポーター育成講座(団体内展開)」参加者：56名 ■2023年5月28日(日)「高校生対象：食品ロス削減推進サポーター育成講座(団体内展開)」参加者：62名 ■2023年5月28日(日) こころの先生クリニック スタッフ研修【障害者雇用促進を目指すフードバンク東九州の役割について】 ■2023年8月20日(日) こころの先生クリニック スタッフ研修【医療従事者として実現可能なSDG'sへの取り組みについて考える】【精神障害者のフードバンクボランティア参加とその意義・効果について】【接遇マナー レベルアップ研修】 ■2023年9月18日(祝・月)「高校生対象：食品ロス削減推進サポーター育成講座(団体内展開)」参加者：37名 ■2023年9月18日(祝・月) こころの先生クリニック スタッフ研修【フードバンクボランティアとして可能な、社会復帰を目指す方々への支援について】【食品ロス削減推進サポーターとしてのボランティア活動の進め方】 ■2023年9月27日～28日 第59回大分東明高等学校文化祭において、食品ロス削減推進サポーターに認定された生徒による「食品ロス削減」についての啓発講義。 ■2023年12月2日 大分東明高等学校・向陽中学校にて、食品ロス削減推進サポーターに認定された生徒による、「第1回東明・向陽（フードドライブ）」実施。 <学校現場でのSDGs、環境、社会、家庭科、食育等での出前授業> ■8月1日(火) 高等学校教育研究会家庭部会研究大会の開会行事の中で、食品ロス削減推進サポーター制度のご紹介をさせていただきました。 <食品事業者等と連携した食品ロス削減の取組（フードバンク活動、フードドライブ等）><地元の食品事業者等への食品ロス削減方法について助言> ■食品小売業者より定期的にフードドライブ品が持ち込まれます。その食品については、予め「食品リスト」を頂戴したうえで、フードバンク東九州内でも検品を行っています。また、お互いに合意した「食品の提供・譲渡に関する合意書」を交わした事業所のみ提供の受付を行っています。
39	一般社団法人愛媛県晴活	○		○		○		○		地域住民を巻き込んで、活発に取組を行いました。 例えば、昨年12月3日（日）に困窮者自立イベントを開催した際、物資を配るだけではなく、食堂も合わせて同時開催しました。残った料理をリメイクし、即席漬物を作りました。また、備蓄食料を活用した食品ロス削減につながるレシピを考案、賞味期限が迫っている味噌をその場で調理し、じゃこで煮詰め、お握りの具材として使用し、子どもや高齢者がすぐに栄養価の高いものを吸収することが出来、栄養に繋がる食べ物を提供した。 食品ロスの問題に関する内容を作成して、当法人のホームページに掲載している。 出前授業や地域イベントでの食品ロス削減の啓発活動 家庭で余っている未開封の食品を集めてフードバンクに寄付など。また、消費者庁チラシ「今日から実践！食品ロス削減」家庭編と小冊子を四千枚を松山市教育委員会を経て松山市の小学4先生に配布した。
40	一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター	○		○						○1. リサイクルデータブック2023の無償ダウンロード 日本のマテリアルバランス、資源投入、産業別の廃棄物、使用済物品、市町村のごみの処理・リサイクル等に関する最新の物量データ（重量）をグラフィカルに分かり易く整理。その中で食品廃棄物等の状況についてデータの揭示をした。 (https://www.cjc.or.jp/data/databook.html) ○2. 小学生向け夏休みSDGsチャレンジ「3Rポスターを描こう！」にて、地域の食品ロスを削減するために制作された「おやさいクレヨン」を参加者に配布し、様々な方法で食品ロスを減らす行動が出来ることを知り、考え、体験し、行動する教育機会を設けた。 (https://www.cjc.or.jp/j-school/d/d-8-1.html) ○3. 中学生・高校生・市民のための環境リサイクル学習ホームページにて食品ロスに関する学習情報の提供 (https://www.cjc.or.jp/school/d/d-2.html)

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
41	一般社団法人神戸市婦人団体協議会	○							○	1.婦人会で「神戸市の生ゴミ減量プロジェクト」の講義を開催し、神戸市の燃えるゴミの3分の1を占める台所ゴミを削減するため微生物によって生ゴミを分解するキエーロの話があり、婦人会員がキエーロの容器と黒土（生ゴミの分解発酵を促す）を持ち帰り家庭で実施しました。 2.生ゴミ減量にコンポストの購入も考えましたが大きさ設置場所等の問題も多く、実施に至りませんでした。キエーロが比較的簡単に始めることが出来そうなので、宣伝活動を誰でも購入できるようになればいいと思う。 3.買い物をする時は必ず、手前から取りように実践している。 4.自身は出来る限り多く買わないよう使い切れる分だけと努力している。
42	一般社団法人静岡県地域女性団体連絡協議会	○		○						ダンボールコンポスト普及啓発の際に食品ロスを呼びかけた、料理教室の際に食品ロスを呼びかけた、地域住民を対象とした事業の際に食品ロスを呼びかけた
43	雲仙市食生活改善推進員連絡協議会		○							・食生活改善推進員養成講座において、管理栄養士が講話「環境と健康に配慮した適量のすすめ」を実施し、管理栄養士とサポーターが食品ロス削減を考慮したレシピの調理実習を実施した。実習中は、サポーターが講座受講生11人に対し、食材を使い切る方法など食品ロスを出さない工夫を伝達した。
44	岡山西温暖化対策地域協議会	○	○	○	○		○	○		指定された日時において、回収そして配布、こども食堂、養護施設、更生保護等
45	音更町消費者協会	○	○							①食品ロス削減をテーマに取り上げた住民向け講座（サロン）を開催 ②消費者イベントにおいて食品ロス削減を考えるクッキング・トークショーを実施した
46	株式会社minitts	○								全国各地での講演会で登壇する際、必ず食品ロスについての話をしている。対象者は全国の中小企業の経営者が多い。年間3000人程度の経営者に話を届けた。
47	株式会社イワサ・アンド・エムズ								○	・社内イントラネットにて食品ロスについての広報活動 →食品ロス削減月間について、「めざせ！食品ロス・ゼロ」川柳コンテストの募集、文京区の食品ロス削減マッチングサービス『タベスケ』の紹介 ・SNSを利用した社外広報活動 ・文京区主催 文京ecoカレッジモノ・フォーラム食品ロス削減講座「みんなの食べるをつないで助ける」参加
48	株式会社ハローズ		○	○	○		○	○		1. 地方公共団体での講演 2. 公民館講演 3. 小学校での講演 4. マスコミ主催のシンポジウムでのパネラー 5. 中国地方以外のスーパーへのハローズモデルでの食品ロス提供要請 6. 英国コミュニティブリッジの取材・見学 7. 自社からのハローズモデルでの提供 300トン 8. コミュニティバントリーの拡大

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
49	株式会社ランドルームジャパン								○	①食品ロス削減推進サポーターを増やすため第2回講座を受講。サポーターは合計10名になる予定。 ②恵方巻の食品ロス対策について下記5点を実施。 (1)ご予約パンフレットにて『食品ロス削減』への協力の呼びかけコメントを記載。 (2)予約販売を導入。(店舗及びネット予約での承り。ご予約特典として本体価格より8%のお値引き。) (3)前年の販売・値引・廃棄の実績をもとに予想客数を考慮した計画数量の算出。 (4)食べ切り用としてハーフサイズを推奨。食べやすい中巻きサイズも品揃え。 (5)時間帯別販売数量予測により過度な製造を抑制。販売状況と連動した値引を実施。 ③社内報にて『食品ロス削減』に関連した情報を発信。従業員さんの意識を高める。 ④地場野菜の取り扱いを増やし『不揃い』『規格外』と呼ばれる野菜も販売。お客様へのアピール。
50	株式会社日本有機四国	○		○						・事務所内（玄関正面のよく目につく場所）にポスターを掲示し、常時啓発を行っている。 ・店頭での来客対応時、日々の買い物での手前どりの必要性などを訴求している。 ・自分たちが食べるものを必要なだけご自身で作っていただく楽しみを、有機質肥料の販売を通してお伝えしている。 ・12月6日西条市農業青年協議会講演時に、本件の訴求もした。
51	釜石市食生活改善推進員協議会	○			○		○	○	○	地域のサークル活動や小学校での家庭科調理支援時に食べられる食品は無駄にしないように使い切ることと食べることなど食品ロス削減の講話をするようにしている。
52	環境ネット		○							生ごみ資源化アドバイザー養成研修で食品ロス削減について啓発活動をさせていただきました。
53	岩国市食生活改善推進員周東支部		○							年4回の「男性の料理教室」でつくる料理で食品ロスを削減し、理想の料理教室を実現するのが目標。食生活改善推進の事業の中で「男性の料理教室」にかかる予算が少ない、参加一人あたり500円を集めても足りないので、穴埋めしながら行っています。したがって、ムダな材料wは変えないので、いつもギリギリで行っているため、ロスが発生しにくい状態です。
54	宮城県			○	○				○	・地域での集まりでパンフレットを使用し啓発を行った。 ・みやぎ生協 消費生活委員会にてテキスト使用し勉強会を行った。 ・学校現場での授業で食品ロスガイドブックを使用し、食品ロスの現状周知を行い、今後自分たちでできる対策の意見交換を行った。 ・食品を扱う業務に従事しているため、職員への啓発活動を都度実施した。 ・家庭でできる取組等の助言を行った。
55	京都市	○	○	○	○	○	○	○		・京都市立小学校での出前授業 ・近畿農政局主催の市民向け講座での出前授業 ・調理師専門学校での出前授業 ・ホテル観光ブライダル専門学校での出前授業 ・食育指導員研修会への講師派遣 ・10月の食品ロス削減月間に、食品スーパーや百貨店等で街頭キャンペーン、フードドライブを実施 ・大学と連携し、食品ロス削減に係るクイズ、ミニレシピブックを作成し、京都市ホームページで公開 ・団体内でのフードドライブの実施
56	京都市（市民モニター）	○								市が発行している食品ロス削減に関するチラシを活動サークル内で配布しました。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
57	京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会		○							食品ロス削減も活動の一つとしており、生活者の目線からの食品ロスを減らす知恵や工夫をまとめた冊子「食品ロスを減らそう！」を、地域のイベント等で配布しました。 また、同志社大学小谷ゼミの現役学生とコラボし、学生でも簡単に作れる残り物野菜を活用したラタトゥイユ、ポテトサラダ等のレシピや、野菜が長持ちする保存方法の実演などを収録した「食品ロス削減」動画をホームページで発信しました。
58	京都府総合政策環境部循環型社会推進課				○					◆大学の消費生活や食生活などの授業（年間5科目）全てで、食品ロス削減について取り上げました。 ・消費生活の授業では、エシカル消費やSDGsをテーマにした授業回で、食品ロス量の変化、京都市調査の実態、発生する原因、企業や行政の努力を解説し、消費者としての行動や心がけを考え、意見交換するよう指導し、具体的な行動例を自ら発表する機会を設けました。リスクマネジメントの視点で展開する授業では、食品ロス削減を意識した消費行動をするか否かが、社会に影響を与えるリスクにもリスクマネジメントにもなり得ることを資料を元に解説し、自分の今後の行動について考え、ワークシートへの記入を指導しました。 ・食料消費や流通についての授業では、食料消費の課題の1つとして食品ロスに注目していますが、今年度は学生が調べて発表するプレゼンテーションでも食品ロス削減をテーマにした学生がいたので、資料作成に助言するとともに、その後の授業で、行政や事業者の取り組みについての情報を追加しました。 ◆食育指定校となっている小学校の教職員向け講演の依頼があったので、小学生への食育の授業では給食を残さない、取り分け過ぎないなどの指導の際にも食品ロス削減の視点を加えることを提案しました。
59	熊本県	○	○		○			○		・県内高等学校での出前講座の開催や、熊本県民カレッジでのエシカル消費コースの講師 ・事業者向けフードドライブ活動
60	群馬県環境アドバイザー・高崎地区会	○	○	○	○			○		会員各位に知り合いのお店に、ポスター掲示をさせてもらう。
61	群馬県環境アドバイザー連絡協議会	○	○	○	○					・全体での活動は少なく、個人や地域で活動を行いました。
62	群馬県食生活改善推進員連絡協議会	○	○	○	○					・食品ロスの話（食品ロス量、食品期限表示について） ・今日からできるロス削減方法として、冷蔵庫編、食品庫編を説明した。 ・調理実例として、キャベツまるごと使うメニューの紹介。 ・家庭で残りやすい野菜を2つ程度出してもらい、無駄にしない調理をされている方から話をしてもらう。 ・会の会議の際に啓発活動を行った。 ・料理教室において、参加者に「消費期限」「賞味期限」について質問し、①違いがわかるか②意味の説明③どんなものがあるか④買うものするときに表示を見るように、などを説明した。 ・食品ロスの問題を「他人事ではなく、我が事としてとらえて行動に移す」ことを目標に毎日の生活の中でできることを考えた。食材の無駄の削減、食卓上の料理の食べきれる量の励行、災害時用備蓄食料の有効な活用、イベントでの食品ロスの削減など。
63	公益財団法人 愛知県学校給食会								○	当財団では、食品倉庫に学校給食の食材（主に冷凍食品などの加工品）を仕入れ、県内の給食センターや学校からの注文を受けて日々、配送している。 品切れを生じないようにするため、常に食品倉庫には相当量の在庫を持っており、賞味期限切れで廃棄処分をするものもある。（実態として、令和2～4年度の3か年の総量が26トンに上っている。） 本年度は、当財団の職員4名が食品ロス削減推進サポーターに登録し、まずは財団での食品ロスを削減する取組を行った。 具体的には、これまでの在庫管理の方法を見直し、廃棄する量を削減することとした。 賞味期限が2年程度のものも多く、本年度の取組の成果はまだ数値として確認することはできないが、取組の成果は出せると予想している。 一方、廃棄量（食品ロス）を削減ためのもう一つの取組として、賞味期限が近づいてきた食材をフードバンクへ提供することを模索したが、配送や賞味期限などの条件が厳しいことから、実現には至らなかった。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
64	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会	○		○				○		2023年8月6日 参加者55名に対してアンケートを行い、アンケート結果を基にした食品ロス削減に関するアドバイスを実施 2023年11月11日 参加者70名に対してアンケートを行い、アンケート結果を基にした食品ロス削減に関するアドバイスを実施 2024年1月21日 参加者103名に対してアンケートを行い、アンケート結果を基にした食品ロス削減に関するアドバイスを実施。 また、併設してフードドライブを行った。
65	公益財団法人千葉県老人クラブ連合会	○								食品ロスのチラシを会議や研修会で配布した。
66	公益社団法人盛岡法人会	○								・会員を対象とした研修会の開催 ・食品ロス削減推進サポーター育成講座の募集
67	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）	○	○	○	○	○	○	○	○	①地方自治体や消費生活センター主催の市民講座、自治体のイベントに参加しての啓発、大学、高校、社会人大学、小学校、学校給食調理員向け研修会、サポーターの属する自治会や生協等での啓発講座を合計26カ所実施、1060人の参加を得た。職場や友人のグループでの呼びかけも活発に行われた。 ②企業の社員教育に出講、企業へアドバイス、地元の食品企業の食品ロス対応の食品を試買・試食して提言、フードバンクでフィールドワークを行うなど、多様な活動を行った。 ③啓発動画シリーズ4本を公開「〇×クイズ中食・外食編」「〇×クイズ調理・保存編」「いちじく畑での気づき」「うちの生ごみを計ってみた」をYouTubeで公開した。 ④支部の中には会員に食品ロスアンケート意識調査を実施し、削減意識の強化を図ったところもある。 ⑤会員サポーターフォローアップのため、オンライン講師養成講座「ガイドブックを活用した『食品ロス削減』講座実施のポイント」を実施。サポーターの情報共有として、メーリングリストで活動紹介も配信した。
68	広島市環境局環境政策課	○	○	○	○		○	○	○	①広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会（市民・事業者・行政で構成）による食品ロス削減キャンペーン「スマイル！ひろしま」の実施 ・スーパーマーケットの店頭で、買物客に食品ロス削減の取組を呼びかける「ごみ減らそうデー」の実施 ・食品小売店、飲食店等を対象とした「食品ロス削減協力店」の登録・PR ・食品ロス削減協力店に登録する飲食店の一部で、来店客が提供された料理を食べた際に地域発行ポイントを付与するキャンペーン「ぶちええね！食べきりキャンペーン」の実施 ・環境イベント等への出展に合わせたフードドライブの実施 ・生ごみリサイクル講習会やエコクッキング教室の開催 ・ごみ減量啓発DVDの市民への貸出及びYouTubeへの公開 ・食品ロス削減イベント「スマイル！ひろしま広場」の開催（令和5年10月29日開催） ・スーパーマーケット等と連携した「てまえどり」運動の実施 ②学生等と協働で実施した事業 ・エコクッキングレシピの作成、教室の開催、動画の作成・YouTubeへの公開 ・フードドライブの実施 ・エコクッキングレシピ紹介のため、イベントでの試食の実施
69	広島文教大学 SDGs研究会				○			○		2年生15名、3年生7名、4年生1名が、大学授業において講習を受講。 大学内において、前期4回、後期4回の合計8回、フードバンク活動を実施。毎回50～80名程度の学生に食品を配布した。 広島市のフードバンク「アイアイネット」に毎週火曜日、学生1名がボランティアとして参加した。
70	江別消費協会	○						○		団体独自の講習会 米料理講習会において食材を無駄なく使い、さらに防災時に役立つ調理法について講話を拝聴し、実習をおこなった。 前年に引き続き、団体主催の講座、事業において、ポスター、フードドライブ回収箱を設置、協力の依頼事業のPRをおこなった。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
71	合同会社ファンタイム						○	○	○	昨年2023年は下記のように活動いたしました。 ◆弊社は食品ロス削減のために立ち上げた行き場を失った訳あり食品を積極的に取り扱うスーパーマーケット「マルヤス」での商品取扱量を増やすことで食品ロス削減に努めているため、今年も引き続き店舗を盛り上げることで食品ロス削減量を増やすことができております。 昨年度約1000トン/年⇒今期1200トン/年以上を達成できる見込み（年内に店舗を増やすことができれば大幅に増見込み） ◆平素よりゼミや論文、ビジネスコンクールなどを目的として「食品ロス」について学びたい学生さんたちには、さらに問題意識を高めてもらい将来的に指導者や問題解決をライフワークにしてくれるような人材が育つことを期待して食品ロスの実態を開示し説明を行っています。 昨年末は四国経済産業省様の「サーキュラーエコノミーへの移行に向けたデザイン経営普及促進事業」の調査にも協力させていただきました。 ◆昨年（2023年）も「食品ロス問題」を特集されたいくつかの番組でご紹介をいただきました。 【2023年 マルヤスの食品ロス削減の取り組みが紹介されたメディアや媒体】 ・2023年2月9日 日本テレビ「ZIP！」 マルヤスの食品ロス削減の取組を紹介していただきました。 ・2023年9月28日フジテレビ「Live News it!」 SDG s コーナー内でマルヤスの食品ロス削減の取組を紹介していただきました。 ・2023年10月号 農水省発行のWEBマガジン「aff（アフ）」にて弊社「マルヤス」の食品ロス削減の取り組みが掲載されました。 ・2023年11月28日 日本政府SNS及び首相官邸SNSで食品ロス削減に取り組む弊社を「チェンジメーカー（社会問題にビジネスで取り組み解決を目指して挑戦する企業）」として紹介していただきました。 ◆取り扱い商品の一部は「こども食堂」「シングルマザー支援団体」「更生支援施設」など現在計5団体に毎月定期的に寄付をさせていただいております。
72	桜川市役所市民生活部生活環境課		○							令和5年4月に開催された「SAKURAフェスティバル」において、「食品ロス学びのコーナー」を設け、ポスターを掲示するとともに、パンフレットや冊子のほか、食品ロス対策マグネット等のノベルティを配布しました。 10月30日の食品ロス削減の日には、市役所岩瀬庁舎の入口正面にコーナーを設け、PRを行ったほか、来庁者へパンフレットや冊子を配布しました。
73	山口県廃棄物・リサイクル対策課	○		○	○			○	○	◆県主催のイベントに合わせて開催した、環境イベントでの啓発 ◆地域のイベントでの食品ロス削減啓発ちらし ◆小・中学校での食品ロス削減に関する学習の実施 ◆食品小売店舗等での「てまえどり」啓発ポスター・POPの掲示 ◆食品ロス削減啓発メッセージの県庁舎での放送・ラジオCMでの放送
74	山梨県	○	○					○		・出張講座や講師依頼による講座開催（年5回） ・大規模商業施設における食品ロス削減イベントの開催 ・事業者と連携したフードドライブの実施 ・県庁フードドライブの実施 ・SNSを活用した啓発 等

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
75	山梨市食生活改善推進委員会	○		○					○	山梨県の取り組み、食ロス3ゼロ運動の主旨を理解し、会員にも情報共有をしながら活動を推進しました。 2023年6月・9月・2024年2月に、サポーター養成講習を実施し、9月までで34名のサポーターを育成。2月のリモート養成講習には、さらに32名が受講いたしました。 10月には、会員132名を対象に、「ゴミから見えるフードロス」をテーマに研修会を実施いたしました。環境カウンセラーであり地元の環境ビジネスに取り組んでこられた講師を招き、食品が廃棄される現場の実態を学ぶことで、認識を深め、食ロス削減の取組みの重要性を認識することができました。 実施後のアンケートによれば、88%の会員が取組みの重要性を理解できたと記入しています。 また7月と11月には、使い切れない食品などを、地域のNPO法人が主催する子ども食堂、デイサービス及びフードパントリーに提供する目的で、フードドライブを実施しました。7月は理事24名が参加。11月は食育映画「いただきます2」自主上映会の観覧者に呼びかけ、いずれも学校給食が無くなる期間のひとり親世帯の支援に充てていただきました。 また地域のJAが主催する農業まつりに出展し、ホームページに掲載の食ロス削減レシピを印刷したチラシを200枚配布いたしました。
76	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター	○	○	○	○				○	①令和5年度第2回「食品ロス削減推進サポーター育成オンライン講座」に推進員4名が受講しました。 ②出前講座において、食品ロス削減についての学習を行いました。 7/15エコな体験してみよう（南笠東まちづくりセンター） 7/25「SDGsを考えたお買い物」～地球温暖化とお買い物（アルブラ八日市） 7/31夏休み自由研究教室～エコな食事メニューを考えよう～（コミュニティセンター治田西） 7/31夏休み自由研究教室～エコな食事メニューを考えよう～（web講座） 8/30社会科の授業「これからの食料生産」（武佐小学校） 12/5地球温暖化のしくみと対策（坂上様宅） ③食品ロス削減のためのプログラム教材を作成しました。 ④上記のプログラムを活用し、学生及び推進員に対して研修を実施しました。 ⑤滋賀県食品ロス削減推進協議会で当センターで開発した食品ロス削減教材を紹介しました。
77	室蘭消費者協会	○		○						室蘭消費者協会の理事会、消費者大会にて 食品ロスの学習推進しました。 4町内会から要請有り出前講座を行いました。
78	秋田県	○								・出前講座で、地域の食生活改善推進員研修や高校生の探求学習にて、普及啓発を実施した。 ・食品ロス削減に関するイベントを開催した。
79	新潟市									・「にいがた市エコレシビコンテスト」を開催し、エコレシビをクックパッドに掲載 ・小学生などを対象に出前講座を実施 ・「サイチョのスタンプラリー」でフードドライブに参加した方に景品を贈呈 ・広報紙「サイチョプレス」で食品ロス特集号を実施 ・一次生産現場でのロスの発生状況をみてもらう「クラダシチャレンジ」の実施 ・農家から寄付される野菜等を拠点を設けることで円滑にこども食堂へ届ける「フレッシュフードシェア」の開催 ・民間企業の製品を活用して廃棄食品をこども食堂へ届ける「ごちそうさまキャラバン」の開催

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
80	神戸市消費生活センター	○	○	○					○	以下、主に神戸市消費生活マスター（＝神戸コンシューマー・スクールを通して神戸市が養成した消費者問題の解決方法の提案ができる人材）が各自が行った取り組みについての回答です。 ・神戸市主催の市民向け出前講座にて「エシカルがテーマ」の講座講師を担当し、身近な例として食品ロスを取り上げて基礎知識を伝え、可食分の増やし方や冷凍保存などについても紹介した。 ・まずは、身近な人に「食品ロス削減」に関心を持ってもらうことから始めようと、家族や友人との話題にこの問題を滑り込ませたりした。また、「食品ロス削減」に関する新聞記事やテレビ等の報道にも常にアンテナを張って、多角的な面から情報収集に努めた。 ・他市消費生活センター主催講座「私とお財布と地球にやさしい暮らし方（参加者70名）」の講座を担当し、エシカル消費の解説中の「食品ロス削減の取組」において、資料作成にテキストブックのデータを活用しました。 ・所属する一般社団法人エシカルビジネス研究所HPに、企業や地域における食品ロスの取り組み事例を紹介しています。 ・地域への出前講座にて講師をし、テーマ：「エシカル消費って何？」の講座のなかで、日本の食品ロスの現状や削減の具体例をパワーポイントなどを使いながら説明しました。 ・他市の食生活改善推進員として地域で啓発活動を行いました。
81	生活協同組合 パルシステム千葉	○		○				○		オンライン学習会、フードドライブ活動等
82	生活協同組合コープデリにいがた	○		○				○		主にイベントや会議などで呼びかけました。
83	生活協同組合コープみらい 千葉県本部 参加とネットワーク推進部	○			○			○		千葉県内の小学校や、まちづくり大学などで8回271人に食品ロスについて出前授業を実施しました。世界を人口比4つのグループに分けて穀物供給比で食べ物を分配するゲームで、日本は食べ物をたくさんすてているけど、世界には食べ物に困っている人がたくさんいることを実感してもらってから、どこから食品ロスが出ているかを学び、身近なところでは、どんなところで食品ロスが出ているか、食品ロスを減らすためにどんなことができるかをグループワークで考えました。
84	生活協同組合しまね	○	○							生協しまねの組合員活動の中で、西部ブロック理事会企画で「フードロス学習会」を開催しました。消費者庁食品ロス削減推進サポーター養成セミナーで学習させていただいた内容に準じた構成で、PPTを使用し、新井自身が講師としてお話をさせていただきました。（理事・エリア委員15名参加） ①日本国内外のフードロスの現状 ②フードロス削減のため、日常の食生活で改善できること ③「賞味期限」と「消費期限」について ④「事業系」と「家庭系」、それぞれの取り組み紹介と「フードバンク、フードドライブ」について ⑤フードサプライチェーンについて ⑥企業による「食慣習」の見直し 以上、①～⑥までをPPT（パワポ）と配布資料を活用しながら、学習しました。
85	青森県	○		○	○			○		希望する団体へ出前講座の実施 スーパー等と連携した「やってみよう、てまえどり！キャンペーン」の実施 3010運動等、食品ロス削減の働きかけ（県民・市町村・事業者） あおり食べきり推進オフィス・ショップ登録の働きかけ
86	青森県食生活改善推進員連絡協議会	○			○	○				・幼保、小学校、高校の食育事業の時（県内30ヶ所）に、調理実習と講話。 ・ロータリークラブからの依頼で、県で取り組んでいる食品ロス削減の講話。 ・県内産廃棄者女性部への調理実習（ゴミをださない）と講話。 ・JA青森から提供された、お米、りんご、かぼちゃを無駄なく使う料理講習会。 ・林業アカデミーにて、りんごの話とりんご料理（使い切る）。 ・当会の会員に、学習会を実施。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
87	青森県地球温暖化防止活動推進員		○		○					主に講座を実施 「食品ロス」のみをテーマにした講座は実施しなかったが、SDGsの環境分野の講義の中で食品ロスを取り上げた。 ・食品ロスの現状 ・食品ロスの要因 ・食品ロスの影響（地球温暖化等の関係含む） ・食品ロスの削減方法 ・自分ができる食品ロス削減方法を考え実施する
88	青森県中泊町役場				○					町内の小学校2か所と1団体の計3回の出前授業の実施。
89	川西町食生活改善推進協議会	○								団体の地区活動において、今後の地区活動へ「食品ロス」の視点を取り入れる事を目的とし、サポーター講座を受講していない会員へ伝達のための学習会を行った。
90	泉佐野市食生活改善推進協議会	○	○							会員がそれぞれ自分の町会に「食品ロス」の啓発用三角柱（買物編・家庭編）を使って啓発活動を実施しました。 また、泉佐野市健康推進課実施の健康フェスタに参加し、幼児対象に食品ロス削減啓発絵本「ぜんぶたべたよ!」を用いて、読み聞かせを実施し、「食品ロス」の啓発をしました。
91	大阪府食品ロス削減ボランティア「もったいないやん活動隊」	○	○	○	○			○		「もったいないやん活動隊」運営事務局を通じて、行政や事業者と連携して啓発イベントを10件実施。それ以外にも、それぞれが所属する団体の活動を通じ、啓発活動を行っている。 また、新規の隊員を養成する講座にも先輩隊員として参加し、それぞれの取り組んでいる内容などを発表するなどの活動を行った。 また、養成講座のメニューの中に、フードバンク団体での仕分け作業体験があり、新規で養成した隊員たちも希望者が参加した。
92	大阪友の会	○		○	○					友の会ではSDGsの暮らしを進めるための環境チェックを毎年行っており、チェック項目に、ごみを減らす努力。食材を使い切るを挙げて励んでいる
93	朝日町食生活改善推進協議会		○		○					・朝日町健康まつりにおけるフードドライブの実施 ・保育園における食育事業
94	町田市消費生活センター運営協議会	○		○						7月まちだぐらシアにてCO2削減のためにゴミ削減のためのパネル展示 年二回の市庁舎でのパネル展示にゴミを出さない野菜レシピの配布 このほか、行政と連携したイベントに食品ロスに関する資料を提出し参加した市民の方々に紹介した。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
95	鳥取県生活協同組合	○	○	○				○		①鳥取県から事業委託を受け、9月～10月の期間、「フードドライブ」に組合員、お取引先、関連団体とともに取り組んだ。 2,263点（3562kg）の寄付食品を地域・子ども食堂、生活困窮者、学生支援などに役立てました。 ②コロナウイルスが5類扱いになったことから、大山町ことぶき学級（高齢者学級）、当組合員とフードドライブ学習会、青翔開智中学校・高等学校生徒と「食品ロス削減」について学びました。 ③当組合の予備食品（共同購入でのお申し出交換などの対応商品）を活用した「フードサポート」では社会福祉協議会からの生活困窮者自立支援に対応し支援活動を行いました。
96	東海学院大学	○	○	○	○	○	○	○	○	学内の食品残渣を堆肥化し慣行圃場・有機圃場にて年間20種類の野菜を栽培し、出荷できない規格外野菜（農林水産省温室効果ガス削減見える化実証にて最高位の星3つ評価取得）を主軸とした食品ロス削減やエシカル消費の啓発活動を行政機関と連携し多数展開（幼小中高での出前講座、企業・地域へ講師派遣、ワークショップ、食品ロス削減レシピ本作成、食品ロス削減リメイク料理動画44本制作、環境・健康フェア開催、パネルディスカッション開催、フードドライブ、ローリングストック、子ども食堂、規格外野菜Café「さらまんじゅ・とーかい」の運営、菓子工房での製造・キッチンカーでの販売等）している。2023年度の食品ロス対策関係の対面イベント参加者10,820名であった。食べきり運動の強化によって学内食品ロス量を昨年度に引き続き前年比0.62t削減し、2030年までの半減を目指す。また、規格外野菜等を利用した6次産業化の取り組みを産学官連携にて展開し、2023年度は17品の商品化を行い、商品を通じて食品ロス削減の啓発活動を展開した。
97	東大阪市消費者団体協議会	○	○	○	○		○			・団体役員40名に「食品ロスについて」アンケート調査を実施　・東大阪市主催イベント（ふれあい祭り・食品ロスフェスタ・消費生活展）・市民団体主催イベント（市民環境フェス・リージョンセンターまつり）・東大阪市食品ロスネットワーク推進委員会の役員として参加）
98	特定非営利活動法人 チャイルドケアセンター			○			○	○	○	・福岡県筑紫地区（大野城市・春日市・太宰府・筑紫野・那珂川）のこども食堂約30か所を通して生活困窮者を含む子育て家庭を対象に、エフコープ大宰府支所のプラットフォームを利用して、食品を無料で提供するフードパントリー事業を年間48回実施しました。食品事業者等と連携した食品ロス削減に貢献しています。 ・当団体が事務局を務めるフードバンク事業や独自に実施しているパントリー活動を通した食品ロス削減量は、今年度約83万トンを超えています。（フードバンク・フードドライブなど）
99	特定非営利活動法人 フードバンク横浜	○		○	○		○	○		令和5年6月に横浜サンセット21ライオンズクラブと共催の形にて横浜開港祭(みなとみらいの臨港パーク)にてフードドライブを実施した。国際慈善団体とはすでに神奈川東ロータリークラブとで神奈川区民まつり会場にて共催にてフードドライブ実施の実績があるが、今後も横浜市内の各国際団体(サンセット21ライオンズクラブ、横浜山手ライオンズクラブ、神奈川東ロータリークラブ)とは連携を深めてフードドライブ開催の定期化を図ってゆく。横浜のプロバスケットチームである横浜エクセレンス(B3チーム)とは、ホームゲーム会場である横浜武道館での公式試合に合わせて共催でフードドライブを実施することを取り決め、今年度としてすでに12日間実施済みとなり、来場者(観客)のフードドライブに対する認知を高めることが出来た。 マルエツとは横浜市内の店舗での店内フードドライブの拡大に合意し、現在対象店舗が12店に広がり食品回収量が増大する結果になった。令和6年3月19日横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校でSDGsに関する講演を実施。今後も学校での食品ロス削減に関する啓蒙活動に注力をしてゆく。
100	特定非営利活動法人 岡山県社会復帰支援機構 フードバンク事業部元気の家							○		主に、火曜日と金曜日を中心に登録者様へ食料の配給活動を実施しています。
101	特定非営利活動法人 男女・子育て環境改善研究所	○								北九州市で開催した、父と子の料理教室（8月26日、12月16日、3月2日）において、食材を無駄なく使うようにレシピを組み立て、家庭で調理する場合に使い残ったものをおいしく食べる工夫についても話をしました。

令和5年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 146団体（個人を含む）

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
102	特定非営利活動法人いちかわ地球市民会議	○	○	○	○				○	①2か月に一回の「いちかわ地球市民会議」定例会にて活動報告 ②市川市内小学校4年生授業にて 7月6日、エコクッキング実施（カレーライス・人参皮を剥かない・保温調理で食品ロスや省エネを啓発）皆で楽しく、美味しいカレーの昼食でした。 ③市川市内小学校4年生授業にて 9月13日、買い物ゲーム実施（4班に分かれてカレーの材料を模擬スーパーマーケットで買い物をしてお店に支払う。その後、全ての包装材についている数字を計算して材料費に追加して再計算。合計の少ないグループから順位が決まる）環境に優しい買い物を啓発 2回の啓発からも、生徒の皆さんが、親御さんに伝える事で家庭での環境行動への影響は大きいと感じています。
103	特定非営利活動法人おたがいさま						○	○		食品事業者等から支援していただいた食品等をどのように活用しているか説明し、報告書を提出した。 当団体が行っている食品ロス活動はもちろんのこと精米したときにでる米ぬかを農家などに提供し、肥料として活用してもらうよう提案した。
104	特定非営利活動法人コンシューマーズサポート鳥取			○					○	①相談業務で赴く町村の集会で食品ロスについてのチラシ配布し啓発 ②会食会場に容器持参し、食べきれない食品を一部持ち帰り
105	特定非営利活動法人ひまわり	○						○		日頃から食品が無駄にならないようなパントリーを意識している。 大きくは年末に「困窮しているひとり親」と「提供者」とがマッチングできるよう、「ひとり親年越しバック」を開催した。
106	特定非営利活動法人ふくおか環境カウンセラー協会			○	○				○	「北九州市エコライフステージ2023」の中で、食品ロスについて啓発 福岡県食品ロス削減推進協議会において、委員として、食品ロス推進について意見具申 大学の授業で講演。
107	特定非営利活動法人循環型社会創造ネットワーク				○			○	○	青森県のおいらせ町の審議会内でごみの資源化について、フードドライブ・肥料化・バイオガス化について検討した。学校の総合の時間において、海洋ごみとともに身近なゴミ問題を講義した。
108	特定非営利活動法人青森県環境パートナーシップセンター	○	○	○	○	○				・コープあおもり五所川原地域環境委員会において環境出前講座を実施した。食品ロスにちての講話の後、廃食油を使った石鹸作りをした。（松川裕子） ・八戸地域で親子イベントを開催し、手前取りや量り売りなど食品ロス削減に関する講座を行った。（古舘美子）
109	特定非営利活動法人徳島県消費者協会		○	○						・消費者大学校・大学院にエシカル消費コースを設け、講義の中で食品ロス削減についても学んだ。 ・地域の各協会（26協会）が、地域のスーパーや産直市において、啓発用品を配布し、食品ロス削減キャンペーンを行った。 ・北部地区消費者のつどいにおいて、地域の消費者協会が、食品ロス削減をテーマとした寸劇「もったいない もったいない ああもったいない」を発表し、啓発を行った。
110	苫小牧消費者協会	○				○				・6月 消費者庁主催食品ロス削減推進サポーター養成講座受講者 8名、10月7日苫小牧消費者協会主催食品ロス削減推進の学習会開催 講師 当協会サポーター 新聞で紹介されました。苫小牧市主催消費生活展に出展（ポスター展示、食ロス関連絵本展示、食ロスアンケート実施200名）。10月28日ボランティアセンター祭り〇×クイズで参加。その他出前講座3か所、ボランティア団体、中途失聴者対象出前講座、社会福祉協議会職員対象食ロス講座。2月消費者庁サポーター育成講座受講。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
111	奈良県豊かな食と農の振興課	○		○				○	○	・「奈良県食品ロス削減啓発イベント」の開催 ・「奈良県食品ロスポータルサイト」による情報発信 ・職員を対象としたフードドライブの実施 ・リーフレット等の資材の配布による啓発 ・小売店と連携した「てまどり」の推奨 ・出張授業による啓発 ・フードバンク活動を行う団体等の取組を支援 ・農産物直売所を介し、まだ食べられるが販売できない農産物をこども食堂へ提供
112	認定NPO法人 地域環境ネットワーク				○					小学校1校で高学年を対象に、温暖化防止の出前授業を行った。その際に、食品ロスや給食の食べ残しをしないことなどについて子ども達に説明をした。
113	認定NPO法人セカンドハーベスト京都			○	○	○		○		フードドライブを京都生協様や平和堂様などで毎月実施していただいています。また、京都市児童館連盟様と取組み、京都市内の120あまりの児童館でのフードドライブを今年度も実施していただきました。今年度の新たな取組みとしては、食品ロス削減の動画を作成し、YouTubeチャンネルで公開しました。食品ロス削減に関する出前授業は、京都市内の小学校7校にて行いました。
114	尾花沢市食生活改善推進協議会	○	○	○						料理教室において、メニューのものを作った以外に、余ったり残ったりした食べられる部分を使った料理を作って紹介することで、家庭での実践につなげやすい。
115	浜松市消費者団体連絡会	○	○	○	○				○	・容器包装調査と合わせ、スーパー、ドラッグ（食品扱い店舗）に出向いて店舗での消費者対応、取り組み状況調査を行った。本年は京都環境市民の全国調査（脱プラスチック）に参加、浜松地域の4店舗の野菜類の販売形態（地場産があるかバラ売りがあるかなど） ・小中学生に環境、食品ロス削減ポスター募集し、生活展にて展示、表彰行い2月1カ月清掃工場の啓発施設に貸出、展示を行った。 ・R5年11月プレ葉ウォーク、R6年1月遠鉄百貨店の消費生活展にて食品ロス減らそう展示を行い、一般市民に声掛けを行うと同時に前述ポスター優秀作品の表彰を行い一般市民に紹介した。啓発に利用。 ・生活展で配布しているくらしの健康カレンダー2024に具体的にそれぞれが実践できる削減例を示した。
116	富山県婦人会	○	○	○				○		・女性学級の料理教室やその他の学級で、食品ロス削減の重要性を楽しく伝えている。野菜などをきれいに洗い、皮も使用する等、取り組みやすい事柄から活動している。 ・防災学習会で、食品ロスにしない備蓄のすすめ、ローリングストック法を学習内容としている。（2名） ・主催の学習会やイベントの際、富山型食品ロス削減運動（使い切り3015）を勧めている。（毎月、30日、15日は冷蔵庫をチェック） ※3015は、立山連峰の立山の高さから （2名） ・回覧板やポスターでフードドライブ開催を知らせ、集まった食材の一部も使い、子どもと高齢者のふれあい食堂を開いた。 ・イベントの機会を利用し、DVD等を視聴。食品ロスの削減や食の大切さを啓発する。
117	舞鶴市食生活改善推進員協議会		○							・昨年度の野菜使い切りレシピに加え、じゃがいも、玉ねぎ、きゅうり、レタスの媒体を作り、市内のイベントで掲示しレシピを配布した。 ・料理教室などで食材や調味料を使い切る方法を伝達した。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
118	福岡県 環境部 循環型社会推進課		○	○	○					・食品ロス削減マイスター兼食品ロス削減サポーターとして、県内の学校や地域の学習会に派遣。 ・食品ロスの現状と食品ロス削減に向けた福岡県の取組の紹介、家庭でできる食品ロス削減の取組についての講義やエコクッキングを行った。 ・また、今後の活動をより良くするために、マイスター兼サポーター、大学教授、県とで情報交換会を行った。
119	別府溝部学園短期大学	○								令和5年11月23日(木)別府溝部学園短期大学食物栄養学科主催 第1回『Mizobe食のフェスタ』を開催した。テーマは、「食べよう！大分のめぐみ」とし、大分県産食材の普及啓発および、食や健康についての知識習得を目的として実施した。大分県産品を使用した飲食ブースや販売ブース、健康ブース、ステージ企画、展示ブースなど様々なブースを用意した。参加者は、大分県内の高校生や地域住民の皆さま、学内関係者あわせて141名であった。 展示ブースにて、食品ロス削減推進サポーターの学生による『ドギーバッグの作り方』や食品ロス削減に関する展示を行った。学生が作成したスライドでドギーバッグの説明や持ち帰る際の注意事項をわかりやすく参加者に伝えるとともに、動画を流して手作りのドギーバッグを作ることができるようにした。また、食品ロス削減に向けたポスター掲示やパンフレットの配付を行った。
120	北杜市食生活改善推進委員会	○	○							・各世帯に訪問し、独自で作成したチラシを配布 ・食生活改善推進員の地域での会議の際に食品ロスについての勉強会を行った
121	名古屋学芸大学管理栄養学部	○								管理栄養士を目指す学生をサポーターとして育成
122	木津川市こどもエコクラブサポーターの会		○	○	○					■木津川市内の小・中学校で、SDGs学習やエシカル消費学習、ごみ減量学習の授業を行い、食品ロスの問題や木津川市内のフードドライブ活動の紹介などを紹介した。内訳としては、エシカル消費学習授業（5校・20クラス）、SDGs学習授業（5校・10クラス）、ごみ減量（校・クラス）で実施した。■木津川市立南加茂台小学校は、4年生の総合的な学習で食品ロスを年間学習のテーマに選び、「もったいない大作戦」と名付けて1学期に出前講師と一緒に食品ロスの学習を行った後、2学期から3学期にかけて食品ロス削減についての啓発活動を行った。この学習に食品ロス削減サポーターとして授業支援を行った。
123	嵐山こども食堂	○	○	○	○		○	○	○	フードドライブ活動を独自に実施しながら、1ヶ月掛けて食材やお米を募集し、こども食堂開催当日にフードパントリー活動（お米5キロと食材の無償配布）を実施しています）京都市の資源循環局とも協力し、平和堂様や生協様とも提携し、廃棄食材を減らすように活動しています。
124	利根町食生活改善推進員協議会	○	○	○						実施した健康料理教室や普及活動でその都度、フードロスはもちろん”私たちの健康は私たちの手で”という食改スローガンに基づき、正しい知識を普及することで疾病予防の啓発を行った。
125	和歌山県循環型社会推進課				○					・県ホームページへの情報掲載、SNSやラジオ放送による啓発 ・職員の出前講座にて食品ロスに関する講義を実施 ・県内イベントにおいて食品ロス啓発グッズの配布
126	くれ環境市民の会	○	○	○	○	○		○	○	・食品ロス削減サポーター講座として、市を通じて市民からの要請に食品ロス削減啓発講座を出前 ・市の環境啓発事業、環境パネル展へ食品ロス削減啓発展示 ・地球温暖化防止地域協議会主催のイベントで食品ロス削減啓発展示、フードドライブ実施 ・小学校へ食品ロスの出前講座 ・地域高齢者いきいきサロン等への啓発講座 ・企業と協働でのフードドライブ活動実施 ・フードバンク活動実施 ・食品ロス削減の為食品ロスと社会福祉活動を繋ぐコーディネート実施 ・県内地球温暖化防止活動推進員へ食品ロス削減の研修講座実施 ・県から派遣され食品ロス削減啓発講演を実施 ・大学生の食品ロス削減活動へ助言啓発 ・コミュニティパントリー設立を計画し4月に設立、活動をスタートさせる

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
127	個人（NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会）	○	○	○						今年度は、「食品ロス」個別テーマでの講演・講座は無かったが、他のタイトルの講座の中で、また、所属している協議会内での〈みんなのひろば〉で意見交換や、情報の交換を実施している。 また、懇親会等では「3010運動」の実施を幹事にお願いし、実行していただいた。 あまり関心のない方でも、そういった機会があると、ささやかであっても普及啓発に繋がっていることを思う。 今後も続けて行きたいと思っている。
128	個人（NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会）	○	○	○	○					・自治体から依頼された出前授業で、温暖化対策にも食品ロスはつながることを啓発する。 ・特に自治体は食品のロス・廃棄物（水分が多く含む）が清掃工場やグリーンセンターで、エネルギーの消費増の原因であること、また食品ロスを分別収集の大切さを環境政策課にし環境審議委員としてコメントする。 ・懇親会等で「3010」運動の説明とその実行を団体の長として徹底する。 ・究極は食物・食品の自給率の向上をはかり、フードマイレージなども含め、温暖化対策に寄与することを啓発する。
129	個人（キッチンスタジオ夢の食卓・島根県連合婦人会）	○	○	○	○			○		年間を通して、各地域のコミュニティーセンターから依頼された講演や料理教室を実施。その他県内の市町の行政からも依頼された講演・料理教室も実施し、その際に食品ロス削減を推進する内容にポイントを置いて伝えた。その他所属団体が実施するイベント「エシカルマルシェ」でも食品ロス削減に関連する出店者を呼び啓発した。また食品関連監修に入っている都内企業でも引き続き加工品の作成時に食品ロス削減を目指す指導を行っている。
130	個人								○	個人のSNSでの情報発信
131	個人	○						○		大学の授業で、食品ロスについての講義を実施した。
132	個人		○							自治体職員（県）であるため、業務において出前講座やイベント、Xの県消費者センターアカウントにて周知を行った。
133	個人								○	スーパーで食品を選ぶときに手前から取る。青果物などで値引きされ売られている商品（軽度の痛みや黒ずみなど）を買う。 にんじんやごぼうなど皮をむかないで調理する。 家庭で栽培した野菜で一度にたくさん採れてしまうものは、干したり調理して冷凍したりするなど保存が利くようにする。
134	個人	○					○		○	個人ですので、Twitterでほぼ毎日、「使いきり」と「食べ残しなし」・「無駄なし」ワードなど使い、食品ロスに繋がるような工夫や考え方などについて、一般の家庭や個人に対して知っていただけるようにと投稿することを目的とし、より多くの方に簡単そして楽しみながら食品ロスやSDGsについて知っていただけるようにPDCAをまわしながら工夫しております。
135	個人	○			○					私は市内のボランティア団体「野田エコライフ推進の会」に所属し、会では地球温暖化防止として省エネな生活などを提案しています。 2023年度の活動は、2022年度に行った市内の小学校でのコンポスト作りの出前授業の成果を各種イベントで発表することでした。出前授業のコンポスト作りは食品ロスとSDGsを目的とした内容でした。イベントは商工会議所主催の産業祭、市民生活課主催のふえすたのコーナーでポスター展示行いました。併せて送付頂いた啓発用パンフレットと冊子を配布させて頂きました。
136	個人		○		○					青森県から委託された青森県環境教育専門員として数校の小学校環境出前講座のエコ先生として従事し、講座の中で食品ロスを減らすことを学童に伝えている。 また、八戸市の環境学習補助員として、料理に伴うゴミ削減のことを学童に考えてもらう時間に、食品ロスについてアドバイスしている。

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
137	個人		○							昨年10月大分市の関係者と講演会を開催した。タイトルは「食品ロス削減方法について」と題した。対象は小学生から80代の一般市民、内容は3部構成とし、第1章、食品ロスの概要について、世界と日本の食品ロス量を紹介した。国内ロスを事業系と家庭系に分類し、2030年目標値も示した。2章は、食品ロスは何が問題なのか、を3つの視点から説明した。①世界人口80億人の10人に1人が飢えに苦しんでいる現実、②日本の食料自給率38%の低さ。世界人口の増加、イスラエルやウクライナ情勢、気候変動による作物不作、国内農家の減少、日本の経済力GDPドイツに抜かれ4位等、今後食料の調達は困難になる警告。③食品ロスは温暖化の主犯格、食糧の生産から消費、廃棄までに多くのエネルギーを使いCO2を排出している。世界の食品ロスを1国に見立てると、CO2排出量は中国、米国に次ぐ3位置にあること。フードマイレージ値の大きい日本が地産地消を勧める意義。3章、1章と2章を踏まえて、どうする皆さまとして対策を2つ提案した。①買物スタイルを変える、買い物に出かける前の冷蔵庫内チェック、自転車バスを使った多頻度小口購買、季節品の予約制、棚の手前取り。②冷蔵庫内に余裕スペースを設ける、5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）を活用した食品保管管理。まとめは、まず自宅であることから始めてほしい、そして継続してほしいと訴えた。
138	個人		○	○						インターナショナルスクールの小学生、中学生と食品ロスについて話す。（消費者庁の資料を利用）
139	個人	○	○	○						調理実習をする中で食品ロスの削減方法を伝える。 親子の料理教室では自分が食べられる量だけ、子供には料理を盛り付けさせたり、親子に野菜くずをたい肥にする方法を伝えた。
140	個人								○	勤務している会社の同僚や家族等への啓もう活動
141	個人								○	佐倉市の廃棄物対策審議委員として、審議会に出席しました。
142	個人				○					部活での助言
143	個人	○	○	○	○					岡山県の環境広場の講師として小中学校や公民館で講義
144	個人		○						○	情報サイトにて食品ロス削減に関する記事を寄稿
145	個人		○							□1月19日、港区立消費者センターにて、港区消費者のテスト指導員さんとサポーター2名で「簡単調理と試食で学ぶおいしい防災食」というテーマで講座を行いました。 □いざという時に慌てないように、防災食（保存食のアルファ米の食べ方の応用、ポリ袋での炊飯やパスタ調理）の実習と試食を行いました。 □また、緊急時に備えた備蓄や栄養と衛生、照明やトイレについて学びました。備蓄について興味を持っていてもなかなか取り組みない、また、備蓄したものを忘れてしまいがちなので、備蓄用として売られているものでなくても普段使っている食品で日持ちするものを少し多めに買ってローリングストックすることで、備蓄にもなり食品ロスを減らせることをお伝えしました。 □緊急時にはどのような順序で食べるかもお伝えしました。まず、冷蔵庫の中にあるそのまま食べられるもの（昨日のおかずの残りや常備菜など）次に冷凍庫の中のもの、備蓄食品を食べるのはそのあとにすることをお伝えし、傷みやすいものから食べることで食品ロスを減らすことができることを理解してもらえたようです。

任意回答 146団体（個人を含む）

NO	団体名	団体独自	地公体連携	地域イベント	学校授業	社員教育	事業者への助言	事業者連携（FB等）	その他	具体的取組
146	個人		○							3月1日～2日、港区立消費者センターで開催された消費生活展で、「見つけよう！私の家の食品ロス」と題して、サポーター講座を受講した3名で食品ロスに関する展示を行いました。 ・第51回港区消費生活展において「見つけよう！私の家の食品ロス」をテーマに展示と紙芝居を行い、来場者に食品ロス削減について説明しました。 ・講習室のロッカー壁に資料を展示し、テーブルの上には、絵本やパンフレット、ぬりえなどを自由に見てもらえるようにしました。 ・紙芝居はデータを更新しリニューアルしました。紙芝居の最後には食品ロス削減のためにこれからやろうと思うことや日ごろ気を付けていることなどを葉っぱ型の付箋に書いて、模造紙の大きな木に貼り付けてもらう参加部分も取り入れて青々とした木が出来上がりました。 ・子どもたちにぬりえをお渡しし、大人の方々には普段の生活が食品ロスのどのタイプになるのか等チェックシートを通して、私の家の食品ロス削減への手掛かりになるようにしました。 来場者公式発表では400名、そのうち120名ほどが食品ロスのコーナーで話を聞いてくれました。